



3月12日（金）、第45回卒業証書授与式がおこなわれました。新型コロナウイルス感染予防のため、昨年に続いて規模を縮小して実施されましたが、厳粛ななかにも温かさの感じられるすばらしい卒業式となりました。保護者の出席は人数を制限し、来賓はゼロ、卒業証書授与は呼名だけにとどめ、代表者だけが受け取るというかたちになりましたが、コロナ禍での卒業式は、いつかこの世代だけの財産になる日がくるのではないのでしょうか。

校長先生の式辞に続いて、在校生を代表して生徒会会長から送辞が述べられました。別れゆく卒業生への思い出とともに彼らが築いてきた伝統をしっかり受け継ぎ、さらに発展させていきたいと決意を述べてくれました。これに対して、卒業生は4人が登壇し、卒業生全員の思いをまとめるかたちで答辞が述べられました。

卒業の歌は「3月9日」を合唱、このころになると感極まった卒業生が目を見せ、すすり泣く声も聞こえてきました。卒業式いちばんの感動シーンです。ことばにならない感謝・感激の気持ちは、歌とともに一気にあふれ出したように感じられました。

卒業式後のグラウンドでは別れを惜しむかのようにあちこちで記念撮影。このころには希望にあふれた、はじけるような笑顔が見られました。



〔卒業〕・・・このことばの響きをどう表現すればよいのでしょうか。うれしいような、さびしいような、そして未来の希望が見えてくるような響きに、心がゆれます。〔卒業〕とは学校からの卒業だけをさしているものではありません。古い自分、昨日の自分からの〔卒業〕、そして人生の次の段階へ進むために背中を押してくれることばでもあります。そういう意味では〔卒業〕は、必ずしも卒業生だけのものではありません。一人ひとりが前進するための、大切な儀式なのかもしれません。みなさんの心のなかにも、「自分だけの卒業」があることを確認しておきたいと思います。

さて、3年生の卒業によりみなさんは実質的にはもう3年生です。学校の中心として、また部活動の中心として、後輩をリードしていかなければなりません。今まで以上に自分を律し、上級生としての自覚を醸成していく必要があるように思います。

